

日本庭園を楽しむ絵本



大野 八生/作

あすなろ書房〔629〕

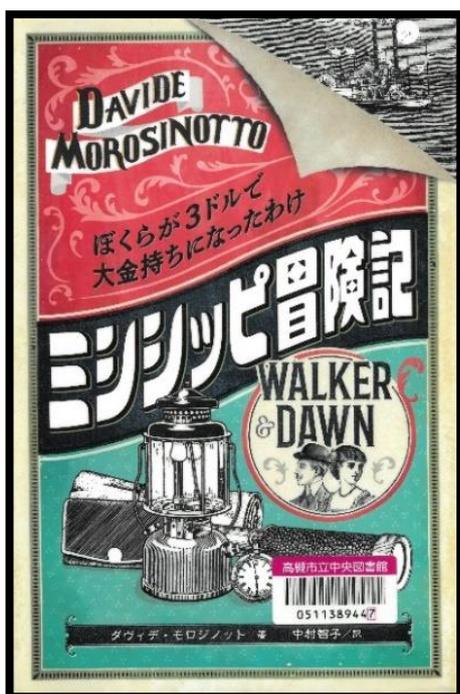


日本庭園をめぐったことがありますか。水を一滴も使わない枯山水庭園、石や水、植物を使った自然風景式庭園など、いろいろな種類があります。

室町時代後期には枯山水がたくさんつくられました。石や砂を用いて、水の流れや山など、自然の風景をあらわします。日本庭園に欠かせない石には、植物とちがってずっと姿形が変わらないことから、永遠という意味がこめられました。

この本では、日本庭園の歴史、鑑賞の仕方も楽しく知ることができます。

ミシシッピ冒険記 ぼくらが3ドルで大金持ちになったわけ



ダヴィデ・モロジノット/著

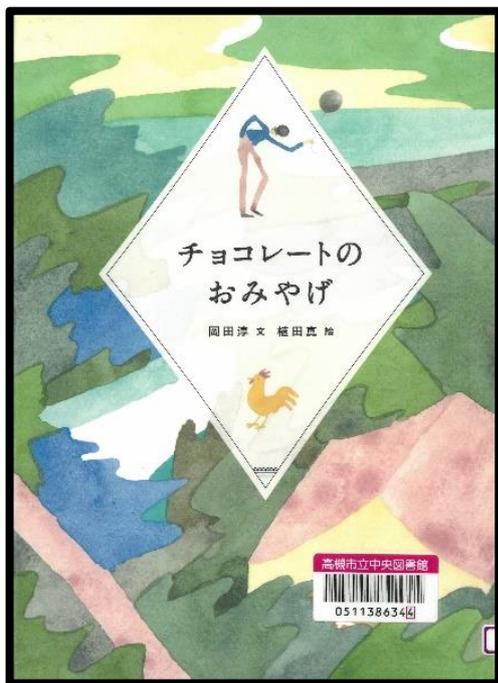
中村 智子/訳 岩崎書店〔973モ〕

20世紀初頭のアメリカ・ルイジアナ州。ミシシッピ川河口の地に、ぼくら4人の仲間は暮らしている。

始まりは沼で3ドル入りの缶を釣り上げたことだった。ぼくらはそのお金をもとに、通販カタログでピストルを注文した。しかし届いたのは壊れた時計。それを、なんと販売員の男が奪いにきた。時計には途方もない価値があるとみたぼくらは、大金持ちになることを夢見て、手製の丸木舟でミシシッピ川をさかのぼり、通販会社のあるシカゴめざして旅に出た。

冒険と推理を一度に楽しめる物語です。

チョコレートのおみやげ



岡田 淳/著 植田真/絵

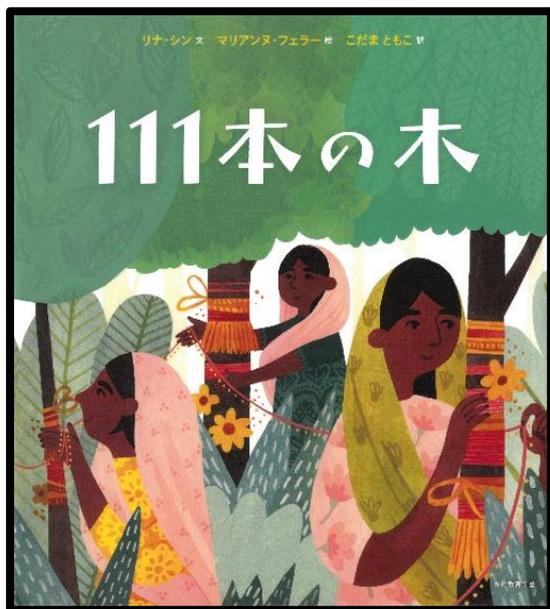
BL 出版〔913オカ〕

一度行って見たかった神戸の異人館や港。みこおばさんがきょう一日、小学五年生のわたしにつきあってくれた。みこおばさんはお母さんの妹で、とてもすてきな人だ。

港の公園のベンチにすわると、おばさんはチョコレートの箱をとりだした。つつみを取り出し、二人でいっしょに口にのめる。「時間がとけていくみたい」おばさんはそう言って、風船売りの男とその相棒のニワトリをめぐる不思議な話をはじめた。

あわい色調の挿絵も、このお話にぴったりです。

111本の木



リナ・シン/文 マリアンヌ・フェラー/絵

こだま ともこ/訳

光村教育図書〔エ〕

インドのある村では、男の子が生まれると盛大に祝う習慣がありましたが、女の子にはありませんでした。

その村は、近くにある大理石工場の採掘のせいで、草や木も生えない荒地となりました。スダルさんは木を植えて緑豊かな土地をとりもどしたいと考え、選挙に出て村長になります。それから「女の子が生まれたら、木を植えておいわいしよう」と、村人ひとりひとりに自分の考えを話して聞かせました。

これは本当にあったお話です。ジェンダーや環境の問題について、一緒に考えてみませんか？